

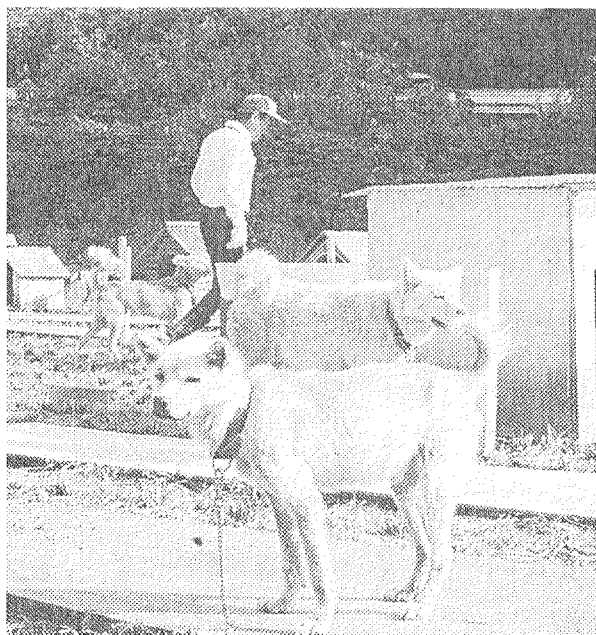
捨て犬飼育のお年寄り倒れて…

放置40頭、奈良県が収容

愛護団体が要請

治療後、引き取り先探し

奈良県大里市の民家で、満足に生ずるものもないような劣悪な環境で飼われていた犬約四十頭が十四日までに、奈良県保健環境部などに保護され、新設予定の収容施設で治療を受けることになった。捨て犬を預かり続けた飼主のお年寄りらが病気で飼育できなくなり、動物愛護団体の要請で県が対応に乗出した。行政が収容施設の設置まで施すのは全国でも珍しい。県では、犬の皮膚病などの治療が積み次第、引き取り先を探すことにしている。ペットブームの陰で、身勝手な飼主たちの犠牲になった犬たちの姿に、関係者から憤りの声が上がっている。



保護されて治療を待つ犬（奈良県・天理市で）

このお年寄りは無職の男性
(7)で、五十年前、周囲に民
家のない同市東部の山奥の借地
(約二百平方町)に、アレハブ小
屋を建て、大七頭を飼ひ始めた。
その後、いろいろな理由で大が
飼えなくなつた人たちが引き
取りを始め、一時は約二百五十
頭にまでふくれあがつたとい

を開始。今年六月ごろから欧米
各国の愛護団体などに、現状を
知らせる手紙約九千通を郵送。
県には改善策を求める抗議文約
四百通が各国の市民から届い
た。

こうした声に動かされる形
で、県保健環境部などは今月十
十一の晦日、皮膚病で症状の重

う。

大の敏が収育能力を大幅に超えたため、衛生面の問題も神戸県の再三の改善指導にもかかわらず、放置状態が続いた。昨年末ごろからは、刺し主の男性の神経痛が悪化、十分な飼育もできなくなり、約四十頭の大が終日、狭いおりにスミ詰めの状態に。汚物処理も不十分で、大で皮膚病がまん延する事態にまで陥った。

こうした惨状を知った動物愛護団体「アーク」（大阪府能勢町、代表者日エリザベス・マリバーさん）らが、救済活動

い頭を動物病院に入院させた。ほか、三ノ頭を、いふく小坂に近いき地に移すなど、保護頭を講じた。頭は、一月間、同市内に収容施設を建設、畜養施設を計画で、前章が終つた。い、順当に、引き取り先を求め、頭では、同頭のケースは、あくまで特例で、無責任な飼主の犠牲になった人たちの実態を明らかにすることで、本当の動物愛護を考へるきっかけ作りをしたい。『南佳菜環境保護部改』としてゐる。

一方、犬の治療を担当している獣医師で奈良・桜井保健所職

大型船割り出し急ぐ

御前崎沖 漁船衝突 不明5人の搜索続く

静岡県御前崎沖の遠州灘で千
三日、漁船「万盛丸」が大形船
と衝突、転覆し、乗っていた釣
り客二人が死した事故で、船
水海上保安部などは十四日朝か
ら、行方不明になったまの五

人と沈没した釣りの船の残がいの
搜索に全力を挙げる一方、衝突
した大型船の割り出しを急いで